那須野が原博物館　中期目標項目・評価シート
第2期（平成29～令和3年度）

令和3年度

中期目標の項目	中期目標の内容	評価指標		3年度目標値(5か年)	期間実績合計	3年度目標値	3年度実績	備考
1．収集・保存・活用								
1-1　資料の収集	収集方針をもとに採集・寄贈・購入等を通して積極的かつ継続的に資料を収集します。	新規収集資料件数	採集・購入他(全分野)	1,460件	3,407件	292件	220件	
			1.歴史	400件	298件	80件	18件	聖火リレー記念品、絵葉書、地誌ほか
			2.民俗	25件	49件	5件	0件	
			3.考古	0件	0件	0件	0件	
			4.美術	10件	19件	2件	3件	銅版画
			5.文学	25件	32件	5件	4件	塩原関係作品
			6.地学	50件	40件	10件	4件	トンボ化石ほか
			7.植物	150件	1,351件	30件	0件	
			8.昆虫	750件	1,431件	150件	119件	トンボ、チョウほか
			9.動物	50件	187件	10件	72件	鳥類、哺乳類、爬虫類、両生類ほか
			寄贈(全分野)	―	10,322件	―	1,955件	歴史1,821件、民俗35件、美術21件、文学1件、昆虫32件、動物45件
			合計	―	13,729件	―	2,175件	
		収蔵資料総件数		―	91,939件	―	91,939件	R4.3.31現在 歴史26,442件、民俗6,172件、考古4,284件、文学89件、美術3,977件、地学699件、植物6,400件、動物43,876件
		新規収集図書件数	購入	150件	92件	30件	20件	
			寄贈	―	―	―	251件	
		収蔵図書総件数		―	17,599件	―	17,599件	
1-2　資料情報の公開	収蔵資料データベースの公開を行い、研究者等による利用を促進します。	収蔵資料情報公開件数		5,000件	7,663件	1,000件	2,457件	実績：歴史558件、植物1,344件、昆虫555件 総公開件数：33,704件
1-3　資料の適切な管理	収蔵庫・展示室を良好な環境に保ち、燻蒸により資料の安全な保存を図ります。	燻蒸回数	那須野が原博物館	5回	5回	1回	1回	
			附属施設	5回	5回	1回	1回	旧日新の館
	資料の修復等を行い、資料の保存状態を改善します。	資料の修復	歴史資料	25件	27件	5件	0件	
			考古資料	15件	7件	3件	2件	
			美術資料	25件	17件	5件	1件	
			常設展示	―	―	―	1,027件	

中期目標の項目	中期目標の内容	評価指標		3年度目標値(5か年)	期間実績合計	3年度目標値	3年度実績	備考
1-4　資料の活用	常設展示・企画展示等による資料の利用・公開を促進します。	展示利用数	企画展示	2,500件	3,379件	500件	1,067件	版画展48件、化石展119件、民俗芸能展0件、博物館展900件
			トピックス展他	750件	2,500件	150件	318件	トピックス展203件、なはくAS36件、日本遺産34件、図書館19件、ギャラリー展26件
			黒磯郷土館	―	1,656件	414件	414件	
			日新の館	600件	245件	120件	0件	H31.3.31施設廃止
			関谷郷土資料館	―	1,440件	720件	0件	H31.3.31施設廃止
	収蔵資料を他の博物館・美術館等へ貸し出します。	貸出資料数		―	309件	―	52件	昆虫16件、化石1件、歴史15件、民俗5件、考古11件、美術4件
【特記事項】	新規収蔵資料のうち購入資料については、全体的に目標値を下回り、限られた予算の中で目標値を達成するのが難しい状況となっている。寄贈資料は、歴史（箒根村役場関係文書725件、塩原温泉関係絵葉書パンフレット類533件、三島家文書398件ほか）・民俗（繭袋30件ほか）・美術（竹工芸7件、銅版画資料10件ほか）・文学（塩原関係作品1件）・昆虫（チョウ類32件）・動物（魚類42件ほか）の受入れを行った。資料の公開については、歴史（塩原温泉絵葉書558件）・昆虫（カメムシ類472件、チョウ類83件）、植物（1,344件）において実施した。資料の修復については、考古分野で縄文土器2件、美術分野で日本画（市指定）1件実施した。資料の活用については、全体的に目標値を上回った。トピックス展他には、博物館における展示だけでなく、那須塩原市図書館との連携展示での利用数も含んでいる。収蔵資料の貸出先は、島根県立三瓶自然館・上高津貝塚ふるさと歴史の広場・都城島津邸・栃木県立博物館・那珂川町風土記の丘資料館・那須与一伝承館である。							
【課題・改善点等】	資料の収集は、今後も採集・購入・寄贈等により継続的に収集していく必要があるが、収蔵庫のスペース不足に伴う資料の安全な保存環境の確保や予算の確保が重要な課題となっている。また、人員不足により、今後資料の整理業務が滞る可能性があるため、早急に適切な人員の配置が求められる。資料の修復は、修復すべき土器や美術作品などを計画的に修復していく必要がある。資料の公開については、新型コロナウイルス感染症対策としてもインターネットを活用した情報の公開が求められるため、今後も積極的な情報の公開に努める。資料の活用については、引き続き企画展示やトピックス展、なはくアートスポット等において、収集した資料を積極的に利用・公開していく。							
【外部評価委員 所見】	資料収集については、購入資料が目標値を達成できなかったことは残念であるが、今後は予算を確保しつつ、引き続き資料の購入に努められたい。一方で1,955件もの市内関係資料の寄贈があったことは大変ありがたいことである。 資料の公開は、これまで同様にできる限り収蔵資料のデータベース化によるさらなる公開を行い、研究者等による利用を促進していただきたい。資料修復については、少ない予算の中で適切に実施されており、今後も引き続き修復を実施されたい。 資料の活用については、全体的に目標値を上回っており、収蔵資料の宮崎県や島根県など遠方地への貸し出しについても評価したい。また、市図書館との連携展示は好評であり今後も続けてほしい。収蔵庫の慢性的なスペース不足や人員不足による資料整理業務の停滞、コロナ禍で要望される収蔵資料のさらなるデータベース化など現実的な課題解決のため、早急に適切な人員数を配置していただきたい。							
2. 調査研究								
2-1　調査研究活動の推進	地域に関するテーマや博物館活動に関する調査研究を行います。	那須野が原博物館紀要発行回数		5回	5回	1回	1回	
	研究成果を広く市民に還元します。	学術論文の執筆数、発表会や講演会の回数		50回	94回	10回	16回	論文5件、発表4件、講演7件
【特記事項】	那須野が原博物館紀要第18号を発行した。紀要の掲載内容は自然分野が5件（昆虫2件・動物3件）、人文分野が2件（歴史1件・民俗1件）である。論文は、紀要で4件（昆虫・動物・歴史・民俗）、他館図録への寄稿で1件（歴史）執筆した。発表は、地域研究発表会で3件（昆虫1件・歴史2件）、自主団体で1件（昆虫）行った。講演は、講義形式で7件(歴史)行った。また、学術情報検索サイト「J-STAGE」において、那須野が原博物館紀要第17号の掲載論文を全て公開した。							
【課題・改善点等】	業務における調査研究活動の時間の確保と計画的な遂行が必要である。調査研究成果の公表のために、今後も紀要の発行及び発行後1年が経過した紀要掲載論文の公開を毎年実施する。那須塩原市で実施している動植物実態調査や地域研究者等と協働・連携を図り、地域の解明に努めたい。紀要の投稿者の確保が課題となっているため、外部への積極的な声掛けを行う。また、新型コロナウイルス感染症の影響も踏まえ、研究成果の還元方法は、従来の発表会や講演会に限らず、ICTを用いた発表の場も積極的に活用していく必要がある。							

中期目標の項目	中期目標の内容	評価指標	3年度目標値(5か年)	期間実績合計	3年度目標値	3年度実績	備考
【外部評価委員 所見】	今年度も新型コロナウイルス感染症のために、調査研究にも大きな影響を受ける年になってしまったことについては、非常に残念であった。しかし、その中でも多彩な地域情報の研究報告からなる紀要の発行が行われたことは、継続的な地域研究の重要性を示したものとして、大きな意義がある。博物館紀要は、当博物館における調査研究の成果公表の場であり、博物館活動の内容を広く外部に伝達する最重要の情報手段であるので、今後も中断することなく計画的に投稿者を確保して恒常的に出版する努力を継続して欲しい。 また、発表会や講演会は、従来の形にこだわらずICTなどをもちいた新たな形を見出していくことに期待したい。						
3. 展示							
3-1 常設展示の充実	常設展示の内容や展示資料の見直しを図ります。						現代美術作品の展示(なはくAS12回)、生体展示(ｳﾁﾀﾞｻﾞﾘｶﾞﾆ、ﾀｶﾞﾒ)、考古資料の一部入れ替え、民俗資料の展示(期間限定)、解説パネルの一部更新
3-2 企画展示の開催	地域または各テーマに対する市民の理解を深める目的で開催し、資料を有効に活用します。	企画展示の開催回数	20回	16回	4回	4回	
		企画展示の観覧者数（学校を除く）	90,000人	85,748人	15,000人	12,916人	H29　30,000人／年 H30～　15,000人／年
		観覧者の満足度（平均）	90%	95%	90%	94%	版画展96%、化石展95%、芸能展87%、博物館展96%
3-3 企画展示の理解促進	図録の発行、記念講演会や展示解説、ワークショップなどの関連事業を開催し、展示趣旨を分かりやすく伝えます。	図録の発行件数	5件	4件	1件	0件	R2年度発行済
		関連事業の参加率	70%	82%	70%	86%	版画展75%、化石展100%、芸能展90%、博物館展77%
		参加者の満足度（平均）	90%	96%	90%	93%	版画展100%、化石展100%、芸能展78%、博物館展-%
3-4 トピックス展の開催	資料を積極的に活用するほか、調査研究によって得られた情報を公開します。	トピックス展の開催回数	55回	50回	11回	11回	1回は臨時休館のため中止
3-5 意向調査	市民の意見を積極的に収集し、ニーズの把握に努めます。	意向調査(アンケート)の実施回数	20回	1回 H30～通年	4回	通年	展示アンケートに意向調査の項目を追加し、通年で実施
3-6 附属施設の展示	附属施設の常設展示の見直しを図ります。企画展を開催し資料を有効に活用します。	黒磯郷土館・関谷郷土資料館常設展示の見直し					黒磯：解説パネルの追加 関谷：H31.3.31施設廃止
		日新の館企画展の開催回数	25回	5回	5回	0回	H31.3.31施設廃止
【特記事項】	4回の企画展示（特別展：「舞い踊る伝承―那須地域の獅子舞・城鍬舞・念仏踊り―」、企画展：「版画のゆくえ―明治錦絵から新版画、そして現代へ―」・「あつめて くらべる 化石図鑑」・「ミュージアム×ミュージアム―博物館ってなにするところ？―」）を開催。令和3年度観覧者総数：15,368人（うち学校見学1,883人）・利用者数8,008人。学校を除いた企画展示観覧者数は13,485人で目標値を10.1％下回った。特別展「舞い踊る伝承」は、那須地域の獅子舞・城鍬舞・念仏踊りにスポットを当て、民俗芸能の歴史や実態を紹介した。実物資料だけでなく、写真や映像を用いてわかりやすく解説できるように努めた。観覧者数1,789人（目標値3,500人）。企画展「版画のゆくえ」は、所蔵する明治の錦絵や高橋由一の石版画、塩原を描いた川瀬巴水の新版画、そして三木コレクションを中心とする現代版画を通して、近代から現代にいたる版画の変遷と多様な魅力を紹介した。さらに、喜多川歌麿の《見立唐人行列》を期間限定で公開した。観覧者数は2,294人（目標値2,500人）。企画展「あつめて くらべる 化石図鑑」は、共通した特徴をもつ化石を集めて、比べることで、それぞれの特徴を浮き彫りすることをテーマに実施した。観覧者数は7,110人（目標値6,000人）。企画展「ミュージアム×ミュージアム」は、日本における博物館のはじまりから、「集める・調べる・伝える」という博物館の3つの機能について、当館の事例を中心に紹介した。観覧者数は1,687人（目標値3,000人）。観覧者数が目標値に達しなかった要因としては、新型コロナウイルス感染症の影響により8月24日から9月12日まで18日間臨時休館したことや、博物館フェスタが中止となったこと、イベントの実施回数や定員を減らしたことにより来館者数が減少したことなどが挙げられる。日本遺産コーナーで華族農場関連資料を展示した。エントランスギャラリーにて、収蔵品を紹介する「かわたろうのなはくの収蔵庫」を2回実施した。						
【課題・改善点等】	民俗芸能や博物館学などこれまで企画展示で取り扱う機会の少ない分野の企画展示を開催し一定の普及効果が見られたが、観覧者は伸びなかった。喜多川歌麿の浮世絵は多くの来場があったことから、今後は話題性の創出が課題といえる。申込み不要の展示解説やワークショップは、参加希望者が多く混乱を生じたため、来年度は事前申込制とする。						

中期目標の項目	中期目標の内容	評価指標	3年度目標値(5か年)	期間実績合計	3年度目標値	3年度実績	備考
【外部評価委員 所見】	県北を代表する博物館として、那須地区の歴史・美術・自然等を基本としながら、各年齢層に応じた分野の展示を考慮していることが展示に表れている。また、常に展示内容の質や効果を考え、展示資料の見直し、入れ替え・更新、県立博物館との連携などに努めていることは賞賛すべきである。このような活動は、継続的にリピーターを育てることにつながると考える。さらなる向上を目指した工夫・努力をお願いしたい。 バックヤードツアーは、多くの人の関心をひけるものとして大変有意義なものである。博物館を知ってもらう意味からも、今後実施回数を増やすには知名度の高い作家の作品等の展示が早道であろう。難しいことであるが、昨年度の歌麿作品公開のような内容の展示を取り入れていきたいものである。						
4. 教室講座							
4-1 講座の実施	研究成果を市民に還元するとともに、入門的なものから専門性の高いものまで多様な講座を開催します。	参加率	70%	65%	70%	89%	セミナー89%
		参加者の満足度（平均）	90%	93%	90%	85%	セミナー85%
4-2 教室の実施	博物館ならではの体験を重視し、子どもの興味関心を高める教室を開催します。	参加率	90%	86%	90%	91%	化石100%、昆虫97%、縄文77%、科学-%(中止)
		参加者の満足度（平均）	90%	98%	90%	98%	化石96%、昆虫100%、縄文97%、科学-%(中止)
4-3 親子体験チャレンジの実施	親子のコミュニケーションを深めるとともに、それぞれが楽しく学ぶことができる事業を開催します。	参加率	90%	79%	90%	91%	
		参加者の満足度（平均）	90%	88%	90%	97%	
4-4 博物館フェスタの実施	市民と協働して、博物館の魅力を広く周知する事業を開催します。	来館者数（延べ）	6,000人	3,500人	1,200人	—人	本祭は中止
		参加者の満足度（平均）	90%	88%	90%	—%	本祭は中止
4-5 各種普及事業の実施	ワークショップや研究発表会などの普及事業を開催します。	参加率	70%	68%	70%	61%	なはくAP75%、発表会47%
		参加者の満足度（平均）	90%	94%	90%	90%	なはくAP100%、発表会80%
4-6 生涯学習活動の支援	質問や相談等に応える業務を積極的に実施し、市民の学習を支援します。	相談対応件数	500件	326件	100件	78件	
【特記事項】	講座は一般を対象に那須文化セミナー(5回)を開催。子ども・親子対象に化石発掘隊(1回)・親子昆虫教室(2回)・子ども縄文体験教室(2回)の3コースを実施。その他に親子体験チャレンジ(9回)・なはくアートプロジェクト(3回)等を開催した。子ども科学教室、博物館フェスタ(本祭)及び親子体験チャレンジ(3回)は新型コロナウイルスのため中止となった。 セミナーは参加形式を講座と動画配信の二通り用意した。動画配信は60人に参加いただいた。動画配信参加者の8割は50歳代以下で、講座の参加者(8割が60歳代以上)と比べ、年齢層が低い傾向が見られた。縄文体験教室はアンギン編みのイメージが伝わらず参加が少なかった。親子体験チャレンジは、初めて事前申込制とした。参加率が91%となりコロナ禍前の令和元年度より20%増加した。なはくアートプロジェクトは新型コロナウイルスのため、延期して実施した。地域研究発表会は3つの発表を行ったが、市広報誌に発表テーマが掲載されず、充分に周知が図れなかった。相談対応は令和元年度を上回ったが、目標値には届かなかった。						
【課題・改善点等】	令和3年度の新型コロナウイルス感染症対策を基準に来年度も事業を開催する。セミナーは講座と動画配信の二通りの参加方式を継続する。定員を超える申し込みが見込まれる教室講座は、フォームによる抽選とし、参加機会の均衡と事務の効率化を図る。						
【外部評価委員 所見】	コロナ禍の中、準備・運営に大変なご苦労があったと思う。人数制限などかなり厳しい募集・運営ではあったが、その応募率はかなりの数字と思う。この背景には講座・教室を待つ多くの人々がいたものと推察する。今回も博物館フェスタは中止になってしまったが、これは特に市民と博物館の間にある敷居を低くする大切なイベントである。再開と充実を期待するものである。 応募数の低いものもあるが、内容が理解しにくいあるいは専門性の高い内容をもつものなどは、案内やチラシ等に十分な工夫が必要かと思う。子どもを対象とするものは、博物館側の目線だけでなく、子どもの生活や身の回りからテーマを見つけてはどうかと思う。 動画の配信は、思った以上に効果があったように思うので、今後が期待できる。						
5. 地域との連携及び市民との協働							
5-1 市民との協働	自主団体を支援し、市民による教育普及活動を促進します。	市民に活動成果の場を提供します。					ｴﾝﾄﾗﾝｽ利用3件(八溝展・田空・栃木水の会)
	各種機関等と連携を図り、広範囲な活動を展開します。	連携事業件数	25件	18件	5件	2件	図書館2件

中期目標の項目	中期目標の内容	評価指標	3年度目標値(5か年)	期間実績合計	3年度目標値	3年度実績	備考
5-2 地域との連携及び学術的な支援	博物館の資料をもとに、文化財保護や環境保全等に関する活動を学術的な側面から支援します。	支援件数	25件	45件	5件	6件	県RDB1件、市動植物調査1件、市文化財審議会1件、市アートを活かしたまちづくり検討委員1件、市文化財保存活用地域計画協議会1件、大田原市那須与一伝承館運営懇談会委員1件
5-3 学校教育との連携	自主団体との協働により、学校見学で来館する児童生徒に対して、展示案内・体験学習等を行います。	学校来館数(那須野が原博物館)	600校	354校	120校	55校	
		学校来館数(黒磯郷土館)	75校	38校	15校	5校	
	学校と連携して、博物館の資料を授業で活用します。また、要望に応じて職員や専門家を派遣します。	資料貸出件数	150件	114件	30件	23件	ビデオ15件、民具2件、開拓5件、その他1件
		出張授業件数	50件	36件	10件	2件	槻沢小1件、南小1件
5-4 実習等の受け入れ	博物館実習や生徒の職場体験等を受け入れます。	博物館実習・職場体験件数	ー	46人	ー	5人	博物館実習5人、マイチャレンジ0人
【特記事項】	≪学校見学への対応≫ 那須野が原博物館では、石ぐら会及びいろりの会と協働で新型コロナウイルス感染症対策を実施しながら、小学3年生・4年生の見学を受け入れた。併せて、新型コロナウイルス感染症で来館できなくなった学校に対し、資料の貸出しや出張授業で対応した。学校見学の利用は博物館が55校1,883人(令和元年度は80校)でコロナ禍前の68%、黒磯郷土館が5校291人(令和元年度は9校)でコロナ禍前の55%となった。学校数が伸びなかった主な要因としては、学校が校外学習をできるだけ実施するといった傾向が見られたが、新型コロナウイルス感染症対策として受入学校数・児童数を制限したためと考えられる。一方、出張授業件数は、学校見学の増加にともない前年度から5件減少した。 ≪市民、自主団体による教育普及活動への支援内容≫ 新型コロナウイルス感染症対策で博物館及び黒磯郷土館の利用が制限されたため、各団体の教育普及活動は実施されなかった。						
【課題・改善点等】	今後、学校見学は、新型コロナウイルス感染症対策を実施しながら、小学3年生・4年生の受け入れを継続させる。受け入れを拡大するとともに、出張授業や資料の貸出を充実させて利用者増を図っていきたい。小学3年生の見学においては、新たな指導要領の内容に沿った体験活動を充実させて、利用する学校の満足度向上、及び来館校増につなげたい。						
【外部評価委員 所見】	５－１市民との協働については、コロナ禍で、利用3件(前の年度は2件)と自主団体の活動も思うようにいかない面もあるかと思うが、活動を広く知ってもらう上で、活動の場を提供していくことは今後も続けていくとよいと思う。 ５－２地域との連携及び学術的な支援については、コロナ禍であるにもかかわらず、文化・芸術、動植物、自然環境等でのニーズに合わせ、サポートが進められていることがよいと思う。SDGsの取組も広く社会に認知されてきたこともあり、このようなサポートは益々必要になってくると思われる。 ５－３学校教育との関連については、学校側では、コロナ禍で外部を利用する諸活動ができたりできなかったり、手探りの状態が続いている。少しずつではあるが、「ウィズコロナ」(コロナではあるけれどもできることを工夫してやっていく)というように、考え方が前向きに変わってきている。後は、受け入れ側の施設のガイドラインとの折り合いになりますが、その対応は、人数制限だったり、オンラインだったり、出前での講師派遣だったり、貸し出しであったりと様々である。博物館も諸事情があり、なかなか本来の受け入れは難しいところと思うが、本博物館でなくては得られない実感を伴った貴重な体験やお話、豊富な資料があるという強みを生かし、様々な工夫やアイディアで学校教育と関わっていくことが大切だと考える。学校は、昨年度から「ギガスクール構想」の推進からICT教育の本格的な実施が進み、一人一台タブレットを活用しての学習がスタートした。タブレットを自分の文房具と位置付け、いつでもどこでも調べたりまとめたりすることができるようになった。直接の体験や見学活動とこのICT化がうまく関連すると児童の学びが深まるのではないかと感じている。これまでも様々な試みを行っていただいているが、ぜひ、今後とも学校との柔軟な対応を模索していただけるとよいのではないかと思う。５－２にも記載したが、SDGsの取組も小学校でも学習や諸活動の中に位置付けようという動きが高まってきている。このような視点から、那須野が原の地域学習が、SDGsのどんなことに結び付いているのかを示していくことも必要になってくるのではないだろうか。 ５－４実習等の受け入れについては、コロナ禍で、中学生のマイチャレンジが行えないことは、仕方のないところではあるが、キャリア教育の観点から、「博物館の人たちはこんな仕事をしているんだよ」という啓発資料があると役立つのではないかと思う。小学校でも、高学年になると自分の将来の夢ややりたい仕事について自分なりに考えを持つので、地元にこんなすごい仕事をしている人たちがいると気付くことも、間接的な体験に結び付くのではないだろうか。						
6. 施設の管理運営							
6-1 施設の維持管理	快適な環境の保全に努めます。	保安、清掃及び維持管理業務の実施、計画的な機器の修繕・更新					

中期目標の項目	中期目標の内容	評価指標	3年度目標値(5か年)	期間実績合計	3年度目標値	3年度実績	備考
6-2　危機管理体制の強化	防災訓練や救急救命講習等を実施し、危機管理体制の強化を図ります。	防災訓練の実施回数	10回	10回	2回	2回	
		救急救命講習の実施回数	5回	2回	1回	0回	
6-3　施設の整備	高齢者、障害者及び外国人等へ配慮した施設の整備に努めます。						実施なし
6-4　収蔵施設の増設	収蔵庫の拡充を図り、収蔵資料の適切な保存に努めます。	収蔵庫の増設					実施なし
6-5　附属施設活動の充実	附属施設（黒磯郷土館・日新の館・関谷郷土資料館）の特徴を活かした活動を展開します。	黒磯郷土館来館者数	7,500人	6,000人	2,500人	926人	
		黒磯郷土館来館者の満足度（平均）	90%	94%	90%	100%	
		日新の館来館者数	8,000人	1,926人	1,600人	―	H31.3.31施設廃止
		日新の館来館者の満足度（平均）	90%	81%	90%	―	
		関谷郷土資料館来館者数	65,000人	26,011人	13,000人	―	H31.3.31施設廃止
		関谷郷土資料館来館者の満足度（平均）	90%	96%	90%	―	
6-6　組織運営	組織の適正な人員配置を行い、効率的な運営に努めます。						
6-7　意識改革と資質の向上	研修会等に積極的に参加し、職員の能力開発、資質向上に努めます。						
6-8　広報体制	各種メディア等への情報提供を積極的に行います。また、ホームページを充実し、認知度の向上を図ります。	マスコミ・メディア等の掲載回数	200回	127回	40回	16回	
		ホームページの閲覧回数	550,000回	674,361回	110,000回	143,708回	
6-9　博物館評価	使命、方針及び中期目標に基づいて評価を行い、博物館活動の改善に努めます。						

【特記事項】

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、感染症対策として、サーモグラフィーカメラや飛沫防止パーテーション、アルコール消毒液の設置、清掃・消毒の徹底、入場制限等を前年度から継続して実施した。残念ながら、8月24日から9月12日まで那須野が原博物館及び黒磯郷土館は臨時休館となったが、その後博物館の活動基準を見直し、1月25日から3月22日までのまん延防止等重点措置期間中でも新型コロナウイルス感染症対策を実施しつつ継続して開館した。

新型コロナウイルス感染症の感染防止のための消耗品の購入を継続、黒磯郷土館では換気扇の改修を実施した。旧日新の館は、博物館資料の一時的な仮収蔵施設として継続して利用、旧関谷郷土資料館内は、非営利活動法人関谷もみじの郷へ無償譲渡を行った。施設の維持管理として、博物館の冷温水発生機のポンプの修繕、シラカシの枝剪定、物置の鍵取り付け、道の駅多目的トイレの便器交換、黒磯郷土館では火災受信機用バッテリーの交換など実施した。館内施設の利用率向上の一環として体験学習室に設置した簡易的なキッズスペース「なはくルーム」は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため引き続き閉鎖とした。収蔵施設の増設については、実現にはいたっていないが、収納棚を増設し収蔵スペースを確保した。

人員では、昨年度5月の事務職員（正職員・1名）の異動により、1名の減のままであるため、引き続き正職員の補充を要求していきたい。

メディアの掲載件数は、昨年度に比べ123%となった。教育普及事業が一部中止となったものの概ね実施できたことが主な要因と考えられる。

ホームページ閲覧回数は、前年度比178%で大幅に増加した。ツイッターで企画展や教育普及事業を紹介し、3月末までに計140回配信し、閲覧件数は157,973件であった。

【課題・改善点等】

新型コロナウイルス感染症のため救命講習が開催されず未実施となってしまったので、実施状況を把握した上で講習会へ参加の勧める。施設設備については、冷温水発生器において経年劣化による大規模修繕が必要である。また、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を行った上での教室講座等実施、あるいはICTを活用した新たな事業の展開を検討する必要がある。また、登録者にダイレクトに情報を配信する「みるメール」を積極的に活用し、広報体制の拡充を図りたい。

中期目標の項目	中期目標の内容	評価指標	3年度目標値(5か年)	期間実績合計	3年度目標値	3年度実績	備考
【外部評価委員 所見】	昨今の地震頻発・集中豪雨・突風は、各施設の傷みや故障を増加させている。各施設のきめ細かい見直し・点検に努められたい。また、「ウィズコロナ」という考えのもと、来館者対応・危機管理体制・整備施設の新たな計画・施策が必要である。施設整備の予算増加は当然ながら、人的配置も不可欠である。是非配慮願いたい。 「ウィズコロナ」を見据えて、情報機器の機能開発や活用に努めていることは評価できるが、情報漏えいや著作権侵害などの危機管理も問われる。さらに研究を高め、若い世代の関心・理解の開拓に努められたい。 日新の館の燻蒸実施は評価できるが、その後の施設整備・管理についてのさらなる改善・向上に努められたい。併せて、これまでも提言し続けてきたが、地球規模の気候変動がもたらしている自然災害や地域意識の変容による地域文化資産喪失の危機に直面している。非常平常を問わない文化財の収集・保存・記録は、当館の使命と考える。そのための収蔵庫増設は急務である。早急の実現を強く要望する。						

【外部評価委員　総合所見・指摘事項】

令和3年度も新型コロナウイルスの感染拡大で、大きな制約の中での一年であったと思われるが、全体的に、那須野が原博物館の活動は推進できたものと思う。

収集資料2,175点で、トータルで収蔵資料件数91,939件となった。1点ごとの地道な登録作業を経て、資料収集が計画的かつ継続的に行われていることを評価したい。また、収蔵資料の公開件数が2,457点であり総公開件数33,704件となっている。開かれた博物館の基本は、資料の公開と考える。今後も継続的に公開して行くことを望むものである。併せて、収蔵庫の慢性的なスペース不足や館職員の適切な人事配置も課題である。調査研究においては、『那須野が原博物館紀要』の継続発行を評価するとともに、それらの発表の仕方についても、新たな時代に即応した対応をお願いしたい。

企画展示においては、より多くの人に見てもらうという点で観覧者数は重要な要素であるが、調査研究を通して地域の発掘に心掛け、展示を通して記録としての図録等の発行も重要なものである。次代の人たちへの伝達と文化の継承へと繋がることを期待したい。なお、常設展のリニューアルも考えるべき時に来ているように思う。教室講座については、コロナ禍での影響を受けながらも、動画配信等の新たな試みは、成果を出していると思われる。また、教室等の新たなメニューも検討しつつ、市民に対しバランスの良い事業の提供を心掛けていただきたい。

地域との連携市民との協働においては、コロナ禍での現状を捉えることができたが、SDGsの取り組みは、博物館の継続化の中で共通するものであり、一つの活動視点ととらえるべきものと考える。施設の管理運営については、コロナ禍での対応に積極的に取り組んでいる姿が伺える。また、那須野が原博物館は開館してから18年となり、施設設備の老朽化が問題になりつつある。予算の確保と共に適切な対応をお願いしたい。来館者に心地よい空間の提供も心掛けて行っていただきたい。

ベースとなる収蔵スペースの確保は、早急なる新収蔵棟の建設が不可欠である。また職員の配置も然りである。博物館は「ひと」「もの」「ところ」といわれ、この3拍子が揃うことで、市民の負託に応え後世へ伝える博物館となりえると思う。併せて、コロナ禍、ウイズコロナの時代に入るとともに、新型コロナウイルスだけでなく、障害となるものへの対応を想定しながら、新しい取り組みを模索し果敢に挑戦する博物館であってほしい。

【博物館の対応】

令和3年度は、コロナ禍で教室講座の一部が中止となったものの、企画展は計画どおり実施することができ、資料の収集や調査研究も継続して実施できた。また、コロナ禍でもできる新たな事業については、SNSを活用した情報発信を推進し、那須文化セミナーの映像配信も行い好評を得ることができた。今後、コロナ禍での感染症対策を講じての事業の実施は避けられないので、変化する感染状況をみながら実施方法を検討していくことが必要となってきている。調査・研究においては、紀要の発行を継続的に行うことで、資料の記録化を継続していくとともに成果を市民に還元することが重要と考えている。調査については、各分野ごとに個々に進めているのが現状である。

博物館関連団体の中には、コロナ禍で活動を控える団体や個人的に団体の活動を控える会員がみられ、団体の活動の活性化等が急務となってきているので、少しでも活動できる方法を団体と協議して事業を実施していきたい。学校見学の対応については、感染症対策を実施しながら、できるだけ多くの学校を受け入れるようにしてきた。一時、新型コロナウィルスの感染状況が悪化し、受け入れを中止したこともあったものの、昨年度よりは来館する学校数は増加したがコロナ禍以前の学校数まで回復はしなかった。。小学3年生については、新たなメニューを開発し見学対応に向けて準備を進めていたが、黒磯郷土館での実施のみとなった。資料の貸出しや出張授業についても、一定程度の需要はあったので、さらに充実を図っていきたい。

現在、新収蔵庫の建設が難しくなってきている現状をふまえ、随時収蔵庫のスペース確保を実施しつつ資料の収蔵を進めているが、根本的な解決には至らないことから、新収蔵庫の必要性を訴えていきたい。また、博物館の人員体制についても十分なものではないことから、人員の充実についても要望をしていく。

外部評価委員
令和4年度那須塩原市那須野が原博物館協議会委員

磯　隆幸	金井　忠夫
高根沢広之	後藤　英雄
木村　康夫	川島　勝子
杉田　智生	松村　雄
千葉　昭彦	君島　章男